# 一般　質問

令和4年　6月定例会

## 子どもの食の安全を守る農業

**戸谷　ひとみ**　議員

### Q 保育所を完全給食に

主食のご飯を家庭から持参する3歳児以上も完全給食にし、大切な子どもたちに炊き立てホカホカの飯南米を食べて欲しい。

小さい頃からおいしい飯南米に親しみ、生産する農家や米作りを身近に感じる取組みにすることで、食育・農育にも繋がる。町長の考えは。

### A 保護者の意見を聞き検討

町長　塚原　隆昭

保護者からの要望がないためご飯の持参が継続しているのが実態。

稲作農家が多い本町では、米作りに対する興味関心を育てることや家庭での親子のふれあいに繋がるという考えもある。

保育所で温かいご飯を食べるメリットはあると思うし、近隣市町では保護者の負担軽減の観点から完全給食で保育料を無償化しているところもある。保護者の意見を聞きながら検討する。

### Q オーガニック給食と有機農業への取り組みは

化学肥料や農薬に頼らないオーガニック給食のニーズが全国的に高まっている。給食を変えたことで子どもたちが健康になったというデータもある。オーガニック給食導入をどう考えるか。

また、有機農業を推進する国の方針に沿い、本町でも有機農業に取り組み、できた農産物を保育所と学校給食で使うことも考えられる。できるだけ有機栽培に近づけるため、町内の農家に協力を求め、町も一緒に適した技術の検証と生産技術の向上を目指す気持ちがあるか。

家庭の金銭的負担を変えず「子どもたちの食の安全に配慮したものに変えていく」「オーガニック給食に取り組もうとしている」こうした姿勢を見せることで、子育て世代に飯南町で暮らして良かったと感じてもらえ、飯南町で子育てしたいと思って移住してくる人も増えると思うがどうか。

### A 少しずつ前に進めたい

町長　塚原　隆昭

部分的な導入であれば可能だが、本格的なオーガニック給食にするだけの生産体制がないのが現状だ。

農業経営が成り立つためには、有機農業に関する技術革新や環境整備が必要。本町の自然豊かな環境の中で有機農業は大事な要素だ。

農業振興計画の中に盛り込まれていないが、少しずつ前に進めていきたい。このことで定住者が増えることも大事だと思う。



## 農・畜産事業へのビジョンは

**熊谷　兼樹**　議員

### Q 新規就農者支援制度変更にどう臨む

昨年12月の一般質問で取り上げた案件だが、その後、どのような制度に変更され、本町はどのように取り組むのか。

### A リースハウス整備事業は継続

町長　塚原　隆昭

確定した制度では、ソフト、ハード二つの事業が選択でき、併用も可能で、ソフト事業は全額国費で賄われるが、ハード事業は自己資金が4分の1必要になった。

町としては、国事業で対応できないリースハウス整備事業は継続する。

### Q みどりの食料システム戦略への対応は

みどりの食料システム戦略の中で、農業者は有機農業を通じ、戦略の目的である環境負荷軽減に貢献できると思う。本町はどのように取り組むのか。

すでに本町では、エコ米生産を推奨している。これとの関係性において検討を要するとすれば課題は何か。

### A 国の歩調に合わせ普及

町長　塚原　隆昭

環境問題、SDGsへの対応、安心安全な食志向等を踏まえると、農薬・化学肥料の低減は避けて通れない。国と歩調を合わせ有機農業の普及に取り組む。

現時点では、エコロジー米生産が、最も安心して取り組める環境負荷の少ない農業だ。当面、生産を推奨し規模拡大を図る。

### Q WCSへの転換を

和牛繁殖経営でコスト削減のためできることは、粗飼料の自給率を上げることぐらいだ。主食用米の減産が求められている現状から考えれば、WCS（ホールクロップサイレージ）への転換を推進する好機ではないか。

### A 生産体制と専用機導入の初期投資

町長　塚原　隆昭

畜産農家へ安定供給するための生産体制（コントラクター）の構築と稲を収穫し加工する専用機械導入の初期投資が課題としてある。関係者と協議を重ね、必要な支援を行う。

WCSの給餌の様子

### Q 畜産廃棄物を処理から活用へ

畜産経営全体の問題として畜産廃棄物（家畜の糞尿）の処理がある。バイオガス発電に取組み、畜産廃棄物の活用を考えてはどうか。

### A 堆肥化して利用

町長　塚原　隆昭

畜産廃棄物は、町内に堆肥需要があることから堆肥化して利用を推進する。バイオガス発電については、町内の家畜糞尿量が少ないことから難しい。

その他「和子牛価格暴落への対応」と「鳥獣被害対策」について質問がありました。